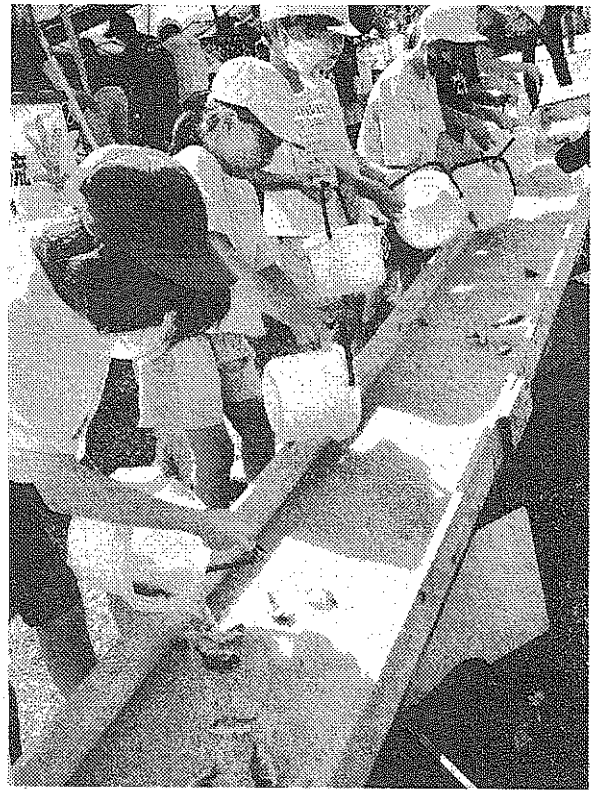
マダイの稚魚放流

ウォータースライダーで小網代湾へ

大きくなってネと願い込め



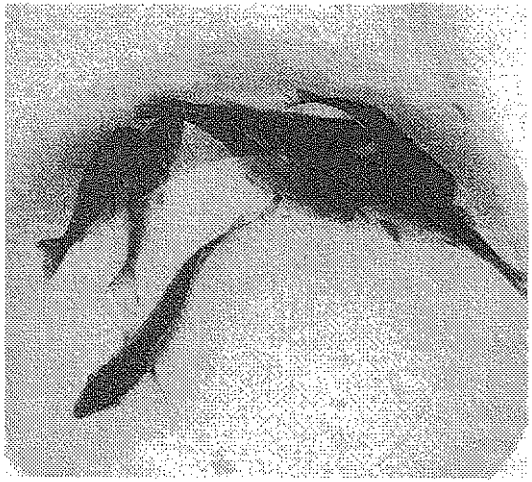
滑り台を使ってマダイの稚魚を放流する児童たち（小網代湾奥岸壁で）

海洋教育の一環に11日小網代湾でマダイの稚魚放流が行われた。毎年、稚魚の放流はNPO法人小網代パール海育隊（略称・小パール隊）とみうら学海洋教育研究所がタイアップしている。約50人の児童が参加し、滑り台のような『ウォータースライダー』を使い放流した。

放流された稚魚は体長10㌢前後で、神奈川県栽培漁業協会が約1年かけて育てたという。小さなバケツに5～6匹ずつ分けられた後、湾内に放流された。ウォータースライダーの上には常に海水が流され、魚が傷つかないよう工夫されている。

関係者によると、標識をつけたマダイが20年後に大磯で捕獲された例があり、養殖されたマダイが最低でも20歳に達していたことがわかったという。小網代の森と小網代湾が密接に繋がっているとし、小魚の稚魚はアマモやカジメをゆりかごに成長する。海水温が上昇し、アマモやカジメが枯れてしまい、海底が砂漠化している。海藻の中には花が咲き、実をつけて増える種類もある。回復させるには時間がかかるが、再生は絶対必要などとよびかけた。

参加した児童は名向小学校が3年生、南下浦小学校は3～4年生。放流に際し「元気に大きくなってネ」などと声をかけていた。



放流されたマダイの稚魚